

令和7年度 自己評価表（年度当初）

鳥取県立日野高等学校

中長期目標	地域の資源を活用し、未来に羽ばたくための学力や豊かな人間性を育み、社会の持続的発展に貢献できる人材を育成する	今年度の重点目標	○主体的な学びの推進 ○人間力の向上 ○地域活躍力の育成 ○魅力発信
-------	--	----------	---

年度当初					評価結果（ ）月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 主体的な学びの推進	学びに向かう意欲・意識の醸成	【学校評価アンケート】（12月実施） ○学びに向かう意欲 ・学習への取り組み姿勢に肯定的な回答をした生徒（問3～問5の平均） 92.2％ ・学習の満足度（問6） 85.2％ ・授業等の指導カードを受ける生徒 減少 ○学びに向かう意義 ・進路指導に対する満足度（問13・問14の平均） 80.3％ ○意欲・意義の醸成 ・人との出会いを通して成長を感じている（問9） 91.4％	【学校評価アンケート】（12月実施） ○学びに向かう意欲 ・学習への取り組み姿勢に肯定的な回答をした生徒が 95％以上 ・学習の満足度90％以上 ・授業等の指導カードを受ける生徒の減少 ○学びに向かう意義 ・進路指導に対する満足度85％以上 ○意欲・意義の醸成 ・人との出会いを通して成長を感じている 95％以上	○基礎・基本の指導を重点的にを行い、授業の理解度向上を目指す。 ○教科に関する研修に積極的に参加し、指導力の向上を図る。 ○「総合的な探究の時間（日野探究Ⅱ）」では、外部の方とのやり取りでも成長を促進していくが、グループ内での自分の役割を明確にし、責任を全うしていけるよう指導していく。 ○学習活動の基本的な姿勢となる「学びのルール」について年度当初に周知・徹底し、教室が質の高い学びを実現できる環境になるように生徒に促す。 ○指導改善カードの運用と並行しながら、特にその場での注意指導を徹底する。			
	授業のICT化の推進	○県外から講師を招聘し、研修会を実施。 ○授業公開週間7月・11月実施。 ○ICTを活用して協同的な学習活動を取り入れた授業を行っている教員 81.8％（27人/33人） ○1年次「産業社会と人間」、2年次「日野探究Ⅰ」、3年次「日野探究Ⅱ」の授業はもとより、発表会でICT活用を促進した。 ○生徒個人のクロームブックの破損・故障が15件発生。	○協同学習とICT活用 ・教員間での授業参観と事後の授業検討会を年2回以上実施する。 ・ICTを活用した遠隔授業を試み、発表の機会を増加する 【ICT活用・指導力調査】 ○ICT活用 ・ICTを活用して協同的な学習活動を取り入れた授業を行っている教員が85％以上。 ・探究学習のICT活用を促進	○研修をとおして得られたICT活用に関する知識を生かした授業改善を行い、生徒の個別最適な学び、協同的な学びを実現する。 ○様々な場面で、ICTを活用した活動を増やす。 ○ICT活用をした、学習活動等の事例を職員で共有する。			
2 人間力の向上	人と関わる力の増大	【学校評価アンケート】 ○人と関わる力 ・自尊感情や自己有用感（問10） 54.3％ ・他者理解において成長（問8） 91.4％ ・人との出会いを通して成長（問9） 91.4％ 【食事に関するアンケート】 ○生活習慣 ・朝食を全くとらない生徒 9.2％ ○規範意識 ・指導件数 4件 ○自己理解・他者理解講演会、性教育講演会、性に関する指導LHR、ストレスマネジメント授業、人権教育講演会及びLHR、デートDV予防学習会を実施し、感想から、多くの生徒が自己の成長や他者理解につながったと実感していた。	【学校評価アンケート】 ○人と関わる力 ・自尊感情や自己有用感60％以上 ・他者理解において成長95％以上 ・人との出会いを通して成長95％以上 【食事に関するアンケート】 ○生活習慣 ・朝食を全くとらない生徒が5％未満 ○規範意識 ・暴力行為、暴言、器物破損等の指導件数が0件	○非認知能力を伸ばすための場面設定をしていく。 ○他者に対する優しさや思いやりが育まれる機会を増やしていく。 ○振り返りや面談をとおして、自らの言葉で状況や思いを整理させる時間を設けるようにする。 ○多様化する生徒に対し、日頃の見守り、情報共有、個別の支援を行っていく。 ○自尊感情や自己有用感を高めることを目的とした講演会などを実施するとともに、個別の支援に努める。 ○保健だよりの掲示、保健室での個別指導、保健委員会からの呼びかけなどをとおして、健康管理及び食に関する啓発活動を継続する。 ○生徒の状況や把握に努め、保護者と連携し迅速に対応する。			
3 地域活躍力の育成	地域で行動するする意欲の醸成	【学校評価アンケート】 ○「地域と連携した学びが充実」（問17）92.6％ ○生徒会執行部を中心として、各学校行事の企画・運営で学校の活性化に努めるとともに、あいさつ運動、交通安全運動、清掃等の奉仕活動にも積極的に取り組み学校改善に大いに貢献した。 ○環境教育LHR、ゴミ減量チャレンジ、ゴミ出さないDAY、TEAS通信などをとおして環境意識を高めた。 ○環境委員がゴミの収集や分別、節電の呼びかけなどを行い、クラスの生徒への環境啓発を行った。電気の使用量は昨年度より微増、可燃ゴミの総量は減少。	【学校評価アンケート】 ○「地域と連携した学びが充実」 95％以上 ○生徒が主体的かつ積極的に部活動、生徒会活動、学校行事、地域貢献活動等に取り組めるようになる。 ○地域の人材・資源を活用した授業等を実施し、地域に対して自分ができることを考えるようになる。 ○環境意識を高揚させ、前年の電気使用量、可燃ゴミの総量を超えない。	○「産業社会と人間」と「総合探究（日野探究Ⅰ・Ⅱ）」をより系列の学びとつながりをもたせる。 ○これまで以上に積極的に地域に出向いて地域との連携を強化し、地域貢献力の充実を図る。 ○環境教育LHR、ごみ減量チャレンジ、ごみ出さないDAY、地域の清掃活動などの環境意識を高める活動を継続する。 ○TEAS通信や環境委員による活動をとおして、啓発活動を継続する。			
4 魅力発信	表現力・PR能力の醸成	【学校評価アンケート】 ○「入学当時と比べて成長」（問18）82.7％ 【学びの成果発表会アンケート】 ○「各学年の成果発表」良い評価 94％ ○「産業社会と人間」「日野探究Ⅰ・Ⅱ」において、探究過程にあっても発表の機会を設け、他者に伝える力を育成した。	【学校評価アンケート】 ○「入学当時と比べて成長」85％以上 【学びの成果発表会アンケート】 ○「各学年の成果発表」良い評価95％以上 ○1学級化に向けた教育課程の編成を行う。	○朝読書や図書館の活用をとおして、たくさんの文章に触れる場面を増やす。 ○事後の振り返りや自分の思いを言語化する場面の設定を増やし、文章力の向上を図る。 ○持続可能な教育課程を作成していく。			
5 働き方改革の推進	勤務時間管理及び働き方改革	○時間外勤務は前年度比（4月～1月）△15.9％。 ○時間外勤務の一人あたり月平均前年度（4月～1月）△0.9時間 ○ボトムアップされたカイゼン方策の多数が効果的であることが実証された。	○時間外勤務年間360時間越えの人数 0人 ○一人当たりの時間外勤務 昨年度から△1h ○適切な部活動指導の継続。	○策定した日野高版業務カイゼン計画を実施する。 ○引き続き、担任業務や分掌業務の平準化を実施する。 ○職員の情報共有及び効率化に向けたDX化を推進する。			

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直

〔100〕

〔80％程度〕

〔60％程度〕

〔40％程度〕

〔30％以下〕